

旭川聾学校同窓会 創立70周年おめでとう!

10月11日（日）、3連休の真ん中の日に旭川トーヨーホテルで「第22回同窓会定期総会」と「北海道旭川聾学校同窓会創立70周年記念祝賀会」が実施されました。参加者は全国各地からお集まりになられていました。

創立60周年記念祝賀会が行われた平成27年度から数えると11年目になります。本来であれば、令和7年度に実施するはずだったようですが、5年ごとに行われる予定の総会は、コロナ禍における会長判断で中止となったため、準備が整わず、11年ぶりの参集となったようです。

14時からの総会は、104名の参加と聞きました。今年は、旭川聾学校が創立から104年目に当たることから、何と記念すべき数字だろうと思い、皆さんにこのことを紹介しました。私は総会で祝辞を述べさせていただいたのですが、会場には手話通訳がいると思い込み、ネイティブな手話話者である皆さんの前で手話付きで話さなければならず、練習もせずに会場入りしたことを後悔しました。しかし、終わった後に、「良かったよ」とお声掛けくださる卒業生の皆さんが何人もいて、「ありがたい」という気持ちと、「伝わりにくかったのではないかな」という申し訳なさ」とで「ありがとうございます。」としか言えませんでした。皆さんに改めて同窓会創立70周年のお祝いを申し上げます。

さて、祝賀会には85名の参加があったと聞きました。とても多い人数です。参加者全てが卒業生です。私は今回の同窓会に出席させていただけることが光栄だと思っていましたが、更にその気持ちを高めてくださった方がいらっしゃいました。最高齢の参加者で、昭和29年度中学部第5回卒業生の佐藤様の乾杯でした。昭和14年生まれとえば87歳になります。一方で参加者には、昨年度高校を卒業したばかりの19歳の参加者もいました。

また、私が札幌聾学校で担当した際の幼児や生徒の保護者もいらっしゃって、御挨拶に来てくださいました。私が担当した当時のお子さんは、もう20代後半や30代になり、立派に社会人として各地で生活しているとのこと。嬉しかったです。そして、お父様やお母様が本校の卒業生であったということ、驚きと共に改めて認識させていただきました。



総会には104名の参加。
その後の祝賀会は85名が参加し、
大きなホールで盛大に開催されました。



最高齢の87歳の参加者による乾杯。
会場は大きな拍手に包まれ、
感動的なひとときとなりました。



懐かしい仲間との再会。
世代を超えて語り合い、笑顔があふれる
すてきな祝賀会となりました。



また、祝賀会では、参加者全員で校歌を歌いました。その際、本校の教員がAIを活用して作ってくれた手話付アニメーション動画に歌詞の字幕を付け、伴奏の音楽と共に本校の子どもたちの歌声が付いているDVDを放映していただきながら歌ったのが感動的でした。なぜかという、本校の校歌に手話が付いてから、20年に満たないと聞いており、歌詞は知っていてもどんな手話表現で歌っているかを知らない卒業生が大勢いるのではないかと考えたからです。その各世代の卒業生の皆さんが、一緒に同じ表現で校歌を嬉しそうに歌う姿は胸が熱くなりました。

そして、もう一つ知っていただきたいのは、2時間掛けて話し合った総会の内容です。総会の内容は、「母校である旭川聾学校へどのような支援をするか」ということなのです。参加者は、旭川聾学校への支援に活用してほしいと、お志を一口2000円として寄付してくれました。これらの中から、卒業式における卒業生への記念品などを準備してくださっているのです。本当にありがたいことだと思います。また、同窓会として、運動会や文化祭に足を運んで出席してくれたり、学校運営協議会の委員になってくださったりしています。

当日、一人一人とお話したいと思い、御挨拶して回りましたが、全ての方とお話することはできませんでした。しかし、私が教頭だったときに中学3年生だった方が、昨年度来校して「仕事を辞めた」と言っていたことを心配していましたが、立派に就職を果たし、自治体職員（公務員）になって、とても充実した穏やかな表情をしていたのがこの上なく嬉しかったです。総会の最後には、新たな同窓会会長様に大内様（本校学校運営協議会委員）が推挙され閉幕しました。

卒業しても母校を思い、力強く結び付いている卒業生の皆さん、機会があれば是非、学校の様子を見に来てください。皆さんが学んでいた頃とはずいぶん変化しています。そして、子どもたちが学ぶ様子や学ぶ環境を知り、喜んでいただきたいと思っています。

同窓会に同席させていただいて本当にありがとうございました。

今後とも、旭川聾学校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

